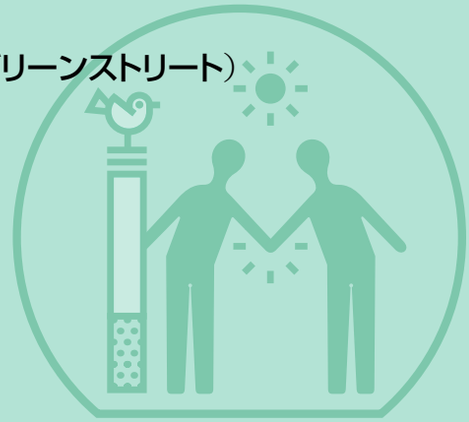
SMOKERS' STYLE COMPETITION 2009

敷地見学レポート＠自由が丘駅南口緑道（通称：グリーンストリート）



参加者

審査員

古谷誠章（建築家・早稲田大学教授／審査委員長）
妹島和世（建築家・慶應義塾大学教授）
西沢大良（建築家・西沢大良建築設計事務所代表）
六鹿正治（建築家・日本設計代表取締役社長）
佐藤英治（設備設計家・イーエスアソシエイツ代表）

商店会のみなさん

志村元道（自由が丘南口商店会会長）
高橋克美（自由が丘南口商店会相談役・元会長）
三町浩（自由が丘南口商店会商業部会会長）

本誌3月号にて告知したように，今年のSMOKERS' STYLE COMPETITIONのアイデア部門は，屋外のパブリックスペースでの提案を募集しています．実現を前提としたものではありませんが，自由が丘駅南口緑道（通称：グリーンストリート）という具体的な敷地を設定しました．
今回は，この敷地周辺の自由が丘南口商店会の皆さんのご案内の下，審査員の先生方に自由が丘南口商店街を歩いていただきました．本レポートは，この際に審査員の方々から敷地についての感想を伺い，グリーンストリートが現状に至った経緯やこれから求められていることについて商店会の方々にお聞きした内容などをまとめています．コンペ主旨のご理解の上で，是非参考にしてください．

古谷　自由が丘という街は東急大井町線と東急東横線の交差するところに位置しているので，いろいろなところから人が集まる場所ですが，一方で，渋谷や横浜，あるいは二子玉川のような街からのアクセスを考えると，どこからも少し離れたところにあって，ポケットのような地域という感覚があります．そして，グリーンストリートも自由が丘の駅前から伸びているわけではなくて，駅からほんの少し離れているので，それが逆に独特の雰囲気を醸し出していて，この地域をよく知っている人たちの共通の散歩道のようになっているのかなと思いました．このグリーンストリートはどのような経緯でつくられたのでしょうか？

高橋　ここはもともとは川が流れていたところです．そのなごりで，現在でも世田谷区と目黒区の区境になっています．それを約20年前に暗渠にして，緑道公園として整備したのですが，以前は自転車置き場になってしまっていて，景観もよくないし，有効な利用がされていたとは言えませんでした．そこで，駐輪場を別に整備して，緑道にはプランターやベンチを置いて路上駐輪ができないようにしたのです．これは非常に効果が出て，自転車はグリーンストリートからほとんどなくなりました．そうして，今ではベンチのような休むところがあって，川の両岸にあったサクラの木が植え替えられていたりと，環境のよい場所になったのです．

西沢　いろんな人が，たくさん集まっていますね．買い物帰り，会社員，カップル，親子連れ，年輩の方など，いろんな人がいます．どこどこの店で買い物をするという目的客だけではないみたいですね．どちらかといえば無目的な人がたくさん集まっていて，ちょうど広場のような集まり方になっています．
それから，人の流れや動きが，非常にゆっくりしていますね．原宿の竹下通りのようなところは，人の流れが速いですよね．あれは目的客（通過する客）しかいないからだと思うんです．そうなると，他のお店もその流れを捕まえようとして，道にワゴンを出してみたり，販売員が出てきたりして，ますます混乱していくことになる．ここはそうではないので，日本では珍しいケースだと思います．よく見ると，座っている人がかなり多いので，そのことも歩く人のスピードに影響

グリーンストリートを歩く古谷誠章氏．

同じく西沢大良氏．

商店会の志村元道氏（左）と審査員の先生方（左から六鹿正治氏，妹島和世氏，佐藤英治氏）．

グリーンストリートを見る．ベンチやプランター，サクラのあるゾーンと，その両サイドの車道によって構成されている．

撮影：本誌写真部 高橋菜生

していますね．

古谷　そうですね．それから，大きなサクラがあるという点でサクラの名所である目黒川周辺と比較してみると，あそこは車がたくさん通りますから，なかなかこういった雰囲気にはなっていない．ここは車両は入ってきますが，主にお店の搬入のためのもので，歩行者に配慮しているから車も同様にスピードは出ていなくて，歩行者道路的な感じになっています．

編集　歩行者もドライバーもこの場所の特徴をある程度知っている感じですよね．だからといって，外から来た人を受け入れない感じもまったくないですね．ここに集まってくる人たちの中には，喫煙されている方もたくさんいましたが，商店会ではどのように受けて入れているのでしょうか？

高橋　緑道を整備した結果，ベンチもあるし開放的だし，たばこを吸うにはもってこいの場所になったのですね．ですから，灰皿がないのにもかかわらず，たばこを吸う方がたくさん集まりました．ただ，そのためにたばこの吸い殻がポイ捨てされるようになりました．そこで，灰皿を置くようにしたんです．たばこを吸う方々も私たちにとってはお店に来てくださるお客様です．だから目をつぶっていたところもありますが，灰皿を置くようになってからは喫煙のマナーは随分改善されました．

分散させるか集中させるか

志村　最初は灰皿はたくさんあったのですが，近隣の方々との話し合いの中で，現在は4カ所になりました．

編集　環境としては4カ所にして煙を集中させるのがよいのか，それとも灰皿をたくさん置いて，煙を分散させる方向がよいのかという問題がありますよね．4カ所にまとめたことで，何か問題はありませんでしたか？

高橋　ルールを守らない人は少なからずいるものですが，やはり人によっては灰皿がないところでも，この場所で吸いたいといった個人的に好みの場所があるみたいですね．問題ということではありませんが，灰皿を4カ所にして，喫煙場所の選択肢が少なくなっても，携帯灰皿を持って好みの場所でたばこを吸う人を見かけます．

それから，ここはもともと川でしたが，塞いでしまったので風の流れがほとんどないんです．4カ所にまとめたことで，煙がまとまって上昇して，周辺建物の上層の方からクレームになったことはありました．

妹島　その4カ所をどこにするかという点はどうやって決まったのですか？問題にはなりませんでしたか？

高橋　あまりなりませんでしたが，吸い殻を誰が片付けるかという問題はありました．基本的には設置されている場所の両サイドのお店の方々が奉仕で管理してくれています．街をきれいにするには，なんといっても維持管理が大切なんですね．最初につくった時だけ関わればよいというものではないんです．

編集　そうした掃除を中心とした維持管理をしていく中で，今後こうなったらよいなという理想はありますか？

三町　こうなったらよいということではないのですが，吸い殻の掃除についていえば，朝からきれいにしておくことが大切なんですね．朝，吸い殻ひとつ落ちていない状態だと後の人も，捨てられない感覚になるんです．1本落ちているだけで，捨てるきっかけになってしまいます．

古谷　なるほど．街にとっての問題は，主に煙と吸い殻ですが，外部の場合は灰皿を分散すると，煙は希釈してある程度自然に解決されるのですが，吸い殻に関しては分散してしまうことが管理面で問題を生じるのですね．そうしたことを解決するアイデアが出てくるとよいですよね．

西沢　今のお話で，喫煙場所が4カ所になった経緯はとても面白いと思います．自然発生的に決まったわけですね．つまり，最初は灰皿がなかった．でもあまりに気持ちいい場所だから吸いたい人が出てきた，その気持ちのいい場所には必ず吸い殻が落ちていて，そこを狙って灰皿をたくさん置いてみた．それを今度は多少まとめて4カ所に落ち着いた．通常の喫煙場所の場合，行政の計画がまずあって，上からトップダウン式に喫煙場所を決められますが，ここはそうではないんですね．灰皿のない状態から，多すぎた状態を経て，今の状態に落ち着いている．おそらくよく観察すると，あり得べき次の状態が推察できるのではないかと思います．

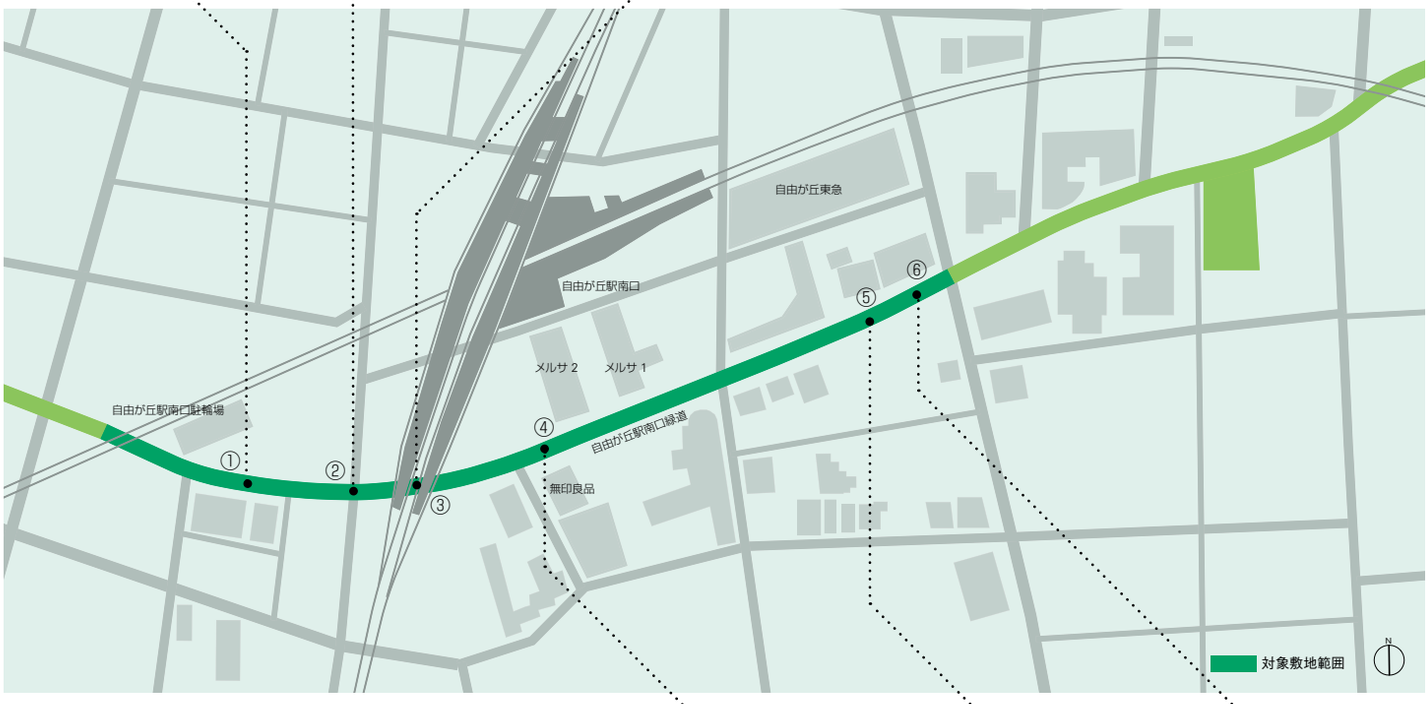
街を活性化させるという視点から

編集　煙や吸い殻と灰皿の配置の関係が非常に重要である一方で，商店街が活性化するような仕組みという側面からパブリックスペースでの喫煙スタイルを考えていくことはできないでしょうか？

六鹿　現状でも十分に活性化されている商店街ですよね．むしろ，今の状態を保っていくために，喫煙場所の位置付けをどう考えるかだと思います．

佐藤　私はやはり，いつも申し上げていますが，かっこよくたばこを吸ってほしいという思いがあります．

対象敷地範囲の様子
①テーブル状の板を重ねたベンチが置かれた一帯.
②高架付近に置かれた灰皿.
③高架下．ベンチが置かれ，ストリートの連続性が保たれている.
④無印良品前に置かれた灰皿.
⑤駐車場の前に置かれた灰皿.
⑥敷地東端付近.



基本情報
対象範囲――300m.
道路幅――10,500mm（車道3,500mm,
緑道公園3,500mm，車道3,500mm）.
現状の灰皿位置――図の①，②，④，⑤.

六鹿　そうですね．ストリートの中央は結構目立ちますから，たばこを吸う人の風景が街の中の一部になって，それでいて吸わない人にも違和感を与えない，より街として活性化していくアイデアであって欲しいですよね.

佐藤　見えることはひとつのキーワードかもしれませんね．今はグリーンストリートから両側店舗の店内が見えるのがよいですよ．そして店の中の人の動きがよく見える．カフェなんかもオープンになっていたり.

無印良品前の灰皿付近の様子.

志村　この商店街では新しい建物を建てる時は，ストリート側の立面について，必ずガラスを3分の2以上にしなくてはならないと地区計画で決めているんですね.

六鹿　オープンなガラス部分の面積を決めるという地区計画が効果を発揮しているんですね．それを聞いてうれしかったです．地区計画が街としてすてきな空間をつくり上げていると実感できるところをもっともっと増やしたいですね，ここをお手本として.

佐藤　建物の外壁がガラスでできていると視線が通りますよね．人の視線があることで，たばこのポイ捨てやゴミを捨てるマナー違反はできない．よい意味で見られているという意識です.
それから，緑道でたばこが吸えるのはほっと一息つけます．と同時に建物がガラス張りだから道路からの目線もいろいろと移るじゃないですか．喫煙室だとずっと一点だけ見ているだけになってしまって，楽しさはないですね.

志村　グリーンストリートで一息ついてもらうのは商店街にとって大事なことなんです．やはり買い物をした後は，どこかで休憩が必要ですからね．ベンチがあって，たばこが吸えたり，ジュースを飲めたりするのは重要なんです．あそこにはサクラが植えてあって，春になると花が咲いてきれいですし，夏になると葉が出て日陰になるから，休むのには最適なんですよ.

西沢　それはぼくも感じました．今は冬だから，日なたを求めて人の集まる密度がゆっくりと移動していますよね．鳩も一緒に移動していましたけれど

（笑）．夏になれば，今度は日陰を求めて集まったり，春になるとサクラの回りに集まることになるでしょう．気持ちのいい場所を計画するには，そういうことがヒントになりますね．それから，もうひとつ大事なことは，ここに集まる人たちのいろんな動作のひとつとして，たばこを吸う行為があることです．たばこを吸うことだけが目立ってしまわないようになっているので，みなさん気持ちよさそうに吸っています．

三町　そうですね．やさしい場所があるのが自由が丘の特性なんです．いろんなお店があって，そこをみなさん散策するわけですから，買い物しているだけの人がごった返しているような街とは違う特性を出したいわけです．

高橋　その延長で私たちはグリーンストリートを使ったお祭りをしています．今は年に5回行っています．それを目当てに来てくれる方もいるようで，人が来すぎて困るぐらいになりますから，もし，灰皿や何かが置かれるとしても，その時には移動できるくらいのあまり重量のないアイデアがよいです．

ストリートの構成要素から考える

妹島　私がグリーンストリートを歩いていて感じたのは，ストリートの真ん中のラインが非常に強いということです．ベンチも中央に向けて，向かい合わせに置かれていて，ラインより強調されている．現状では，もうベンチなどのストリートファニチャーを外しても路上駐輪が増えないんじゃないでしょうか？

高橋　まだ，ちょっと不安ですね．ベンチというよりもそこに座っている人がいるから駐輪できないです．

妹島　なるほど．ただ，現状だとストリートが三等分されているような感じですよね．配置を工夫するなどして，もうちょっと開けてくるとストリートの両サイドが一体になって人が集う風景になるような気がします．

西沢　確かに置き方の工夫というのはあるかもしれないですね．今はプランターとベンチとで，手摺り状にガードレールのようになっていますよね．こういう置き方も僕はよいと思いますが……．もし，若い元気な高校生とかだったら，こんなベンチなんて平気でパスできちゃうけど，子どもを連れていたら，もしくは高齢の方にはそれができないでしょ．いろんな年代の人たちがいるから，普通は柵にならないものが柵のような役割になっているのは，現象としては面白いことだと思います．

古谷　そうですね．このベンチで囲まれた中にいるということは，バリアになっている中に入り込んで，ちょっと休もう，たばこを吸おうという感じにさせるのだと思います．両側にあるお店で買い物をしていたり，何かの用事で歩いているといったようなONの状態からOFFへと切り替わるという雰囲気です．ですから，小さな子どもを連れた人たちと喫煙者が近くで隣り合っていても平和な感じがしますよね．ただ，妹島さんに同感で，この中をもうちょっとジグザグに縫って歩けるような感じがあると，グリーンストリートを挟んで，両サイドを行ったり来たりして，お店の散策と休憩がもう少しルーズで連続的になるような気はします．　（2009年2月23日，3月11,12日，自由が丘駅南口緑道にて　文責／本誌編集部）

今回の敷地見学レポートでは対象敷地の特性とそこでの喫煙スタイルについて，幾つかの視点でお話を展開いただきました．アイデア部門に参加される方々のヒントのひとつになればと思います．

2009年5月号，6月号では2007年に行われた「SMOKERS' STYLE COMPETITION 2007」の作品例部門受賞作品の現地レポートを掲載いたします．　（編）

JT

アイデア部門

SMOKERS'STYLE PUBLIC SPACE

テーマ パブリックスペースでの喫煙スタイル ―― 人びとの集う風景

主旨

昨今，パブリックスペースに関しては，たばこを吸える場所が急激に少なくなっていることで，限られた場所や灰皿に多くの喫煙者が集まり，街としての景観を損なっているケースが見受けられます．

狭い範囲でたばこを吸われることが煙や匂いをかえって目立たせ，結果としてたばこを吸われる方，吸われない方共に不快になる状況が生じているといえるのではないでしょうか．また，オフィスビルや商業施設においても施設内の禁煙化により外構部分での喫煙が増えることで，同様な問題が見受けられます．こうした状況をふまえ，2009年のSMOKERS' STYLE COMPETITIONは，パブリックスペースでの喫煙スタイルについて考えてみたいと思います．施設内ではなく屋外であるため，機械や設備に頼る分煙のあり方ではなく，デザインの工夫，簡易な造作や仕掛け，人の集め方などによるスタイルを考えるものです．基礎が必要となる工事もできない前提とお考えください．

今回は，実現を前提としたものではありませんが，パブリックスペースの敷地として，具体的な場所を設定します．

MORE INFO → http://www.japan-architect.co.jp/JT/